

11 当院における保健指導について
—う蝕活動性試験によるリスク分け—

○宮本由美子, 林 亮子, 柏木伸一郎

小児歯科柏木医院 (福岡市)

保健指導を行う場合、将来のう蝕罹患状況を予測したリスク分けが出来れば、効果的な指導および予防管理が可能となる。演者らは、第7回日本小児歯科学会九州地方会において、う蝕発生の要因と関連性が高い項目を分析し報告した。今回は、う蝕活動性試験を用いて、う蝕罹患状況の予測ならびにリスク分けが可能かどうか調査・検討したので報告する。

対象は、平成2年9月より平成3年1月までに当院を受診した1、2、3歳の新患患者である。初診時においては、口腔内診査、プラーク付着状況のチェックおよび保健指導に必要な項目の問診を行った。また、初回時と処置終了時の2回、MSBBおよびRD-テスト（共に昭和薬品化工社製）の判定を行った。また、4ヶ月後のリコール時において、同様の診査を実施した。尚、リコール時ではMSBBおよびRD-テストの判定は、1回のみとした。

以上の調査項目をもとに、う蝕罹患状況の予測という面から、初診時のう蝕活動性試験の結果とリコール時の新生う蝕に相関性があるかどうか検討した。合わせて、口腔内状況およびう蝕発生要因とう蝕活動性試験との関連性についても調査した。